

344

409

儒  
教  
新  
議

. 008257-000-3

344-409

儒教新議

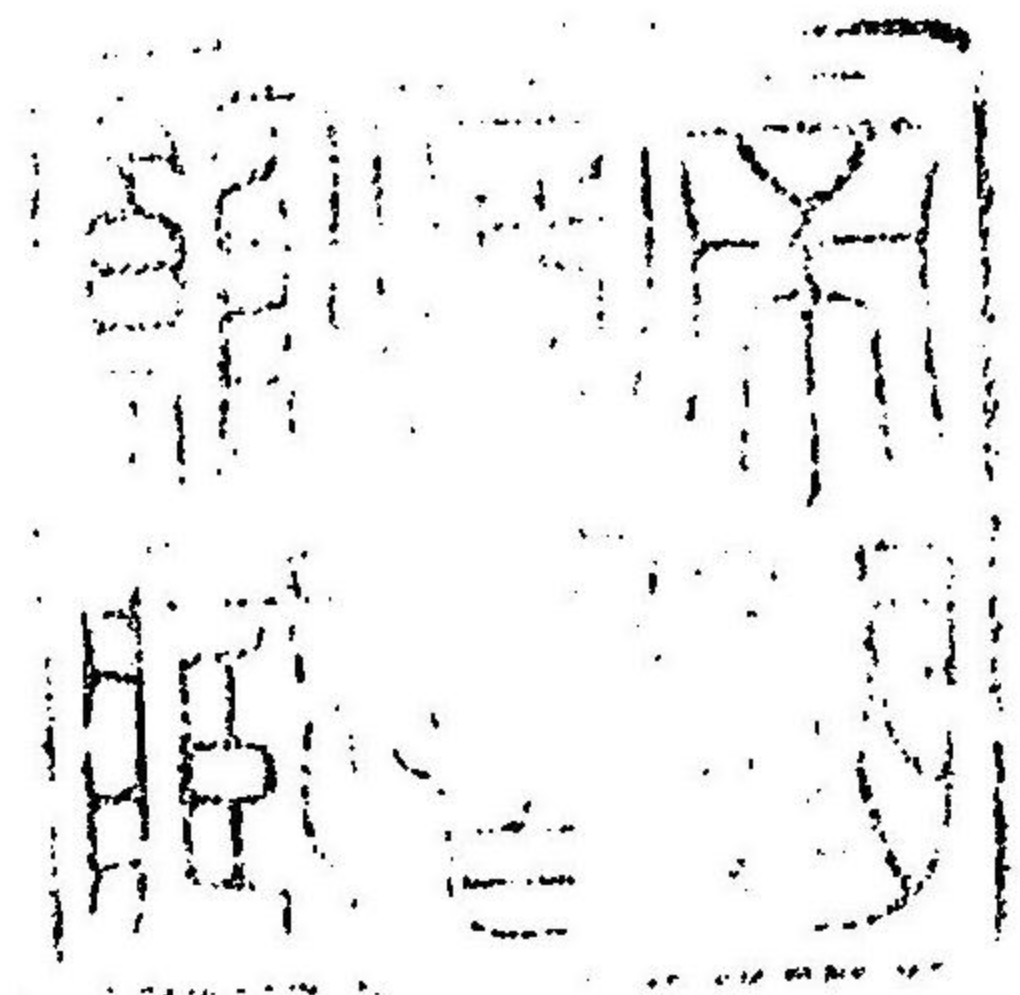
内田 正/著

M42

AAC-0139



344-409



天地之大德曰生。生生之謂易。易有太極。天命之謂性。率性之謂道。修道之謂教。大學之道。在明明德。在新民。在止於至善。居仁由義。大人之事備矣。一日克己復禮。天下歸仁焉。爲仁由己。而由人乎哉。

寄贈本

大正  
3. 5. 12  
寄贈

「儒教主義大發展の趨勢」は明治四十年春孔子祭典復興の際其の祝意を表して同會に寄せ同年秋教育時論「東洋哲學」の二雜誌に掲載せしもの爲仁之方即紫矩之道は四十二年夏世間學者の誤解を正さんと欲し「三宅博士の倫理上第一の格言を讀む」と題して「東洋哲學」倫理講演集の二雜誌に掲載せし論文の附表なり「儒軍廟算大畧」は同年秋學界の風潮に感慨する所あり「朱子學研究」と題し「哲學雜誌」に掲載し始めたる第一篇中の一節なり此の三文は余が近頃儒教に於ける意見の概畧を記述したるものなれば特に之を合刊して一冊と爲し名けて「儒教新議」と曰ふ同志諸君幸に評正を吝むこと勿れ。

明治四十二年四月

濱松 内田 正 識

# 儒教新議

## 儒教主義大發展の趨勢

### 第一節 本論の由來を叙す

現今此の地球上に簇々發生して各自適當に生活せる無數の人類も其の初に湖れば皆蒙昧無智にして天地間に於ける種々の現象と人間社會に於ける種々の事件とに接し、誤認邪推を懷くこと尠からず、加之野氣粗厲にして、一身の行爲より世間百般の交際に至るまで、盲動衝突に陥ること多かりき。抑人類は生物の一種として、皆必ず生存を好み、種族を愛し、發達を欲する本性を具ふるものなれども、王季を父とするに非ず、太任を母とするに非ず、生れて來る者も亦文王に非ず、フレイベルの幼稚園に遊ばず、ヘルバルトの小學校に學ばず、不完全なる父母より生れて不完全なる遺傳を持ち、不完全なる家庭に育ち、不完全なる社會に接し、而して天變地異と争ひ、猛獸賊徒と闘はずんば、一日も此の世に立ち難し、其の蒙昧無智にして、野氣粗厲なるも亦宜ならずや、其の宇宙人生に對して、誤認し、盲動するは決して本性の罪に非ず、本性を載せて之を運用する氣質の蒙昧粗厲なるより來る過失なり、其の過

尖多くして動もすれば紛争衝突の起るは、各個の心意甚だ未熟なるも、之を鍛錬すること知らず、社會の組織甚だ不備なるも、之を修整すること知らざるに因るものならずや。此の時に當り智徳兼備の聖人出で、之れが救済の任を負ひ、蒙昧粗厲なる人々の誤認邪推を斥け、盲動衝突を除き、個人は勿論社會全體を導きて人間社會を善美の境に進めんと欲しき。此の聖人とは誰ぞや、是れ即ち釋迦、孔子、ソクラテース、基督等にして、其の教は千載の下萬國の君主、億兆の生民が歸依尊信する所なり。此等聖人の教を承け継ぎたる歴代の賢哲は、教祖の意志を益發揮して、社會國家の教化に盡力し、不十分ながらも兎に角今日の文明までに馴致し來りたり。

## 第二節 本論の局面を述ぶ

而して茲に四五十年前より東西兩洋の交通次第に開け、東西の文物を交換して兩洋の事情は今や互に了解せられ、列國人は他國の長處と自國の短處とを發見して、各自國今日の文明程度に安んずる能はざるに至れり。尙ほ教育を盛んにして、益個人の心意を向上發達せしめ、政治を隆めて、愈社會の組織を改善調和せしめ、以て個人の智徳と社會の風俗とを完全善美の域に到達せしめ、以て其の本性を満足せしめんとするは、是れ各國識者の希望に非ずや。是に於て各國競うて他國の長處を採

り、自國の短處を補ひ、自國獨得の長處を益發展して、其の光輝を世界に宣揚せんとするなり。概近の時勢に於て自他の長處は何物ぞ、何物を採擇擴張せば果して自國の國運を進め、其の餘澤を世界に蒙らしめ得べきかと、各國の學者志士が日夜切りに考慮して止まざる所なりと信するなり。余は學者志士の驥尾に附し、教學的方面及び政策的方面に就て、自己の觀察したる所を逐次左に述べんと欲す。

## 第三節 教學總論として目的同じけれご手段の

### 異なるを述ぶ

教學的方面に於ける觀察は如何。孔子の儒教をば釋迦基督の宗教と共に史學的若くは心理學的に論究せんに、三聖が辛苦研究の結果漸くに發明したる人生第一の要義なりしか、將た自然に其念頭に浮びたる至善の第一動機なりしかは詳ならず。れども、慈悲、仁愛といふ如き範圍の甚だ廣大にして、漠然たる所の目的、大概念に於ては、蓋し三聖皆同一なるべし。然れども、上は人生の原理を求むるに於て、大に其所見を異にし、下は此の慈悲、仁愛を實現せんとする手段、方法に於て、甚しき差別あり。其の間に衝突する事件も亦尠からず。是れ三教が各其の主義を異にする所以なり。余は先づ儒教主義の大體、即ち儒家の理想と今日其の實現せられたる大勢とを述

べ、次に之を佛耶兩教實行の跡に比較して其の優劣を明にせんと欲す。

(六)

#### 第四節 儒家の理想 其一 學校制度、其二 智德併進、其三 政教一途、其四 教育標準

教祖孔子以來和漢古今の儒家諸賢に共通したる一定の理想を、最も簡明に述べたるものは、朱子の大學序文及び中庸第二十九章の中に在りと信するを以て、先づ之を通俗的に意譯せん。智識に誤解多く行爲に衝突多き此の衆人を如何に啓發誘導し如何に訓練調和せしむべきかと云へば、教義の原理を人類の本性に求め、世界の衆人をして皆其の本性に由り、其の智徳を完成せしむるを以て、終極の大目的とし、其の手段方法は、帝室都府より僻陬村落に及び、學校の設備有らざる無く、人生れて七八歳とならば皇族華族より以下士民に至る子弟は、皆小學校に入れて忠孝禮樂の道徳と文武兩道の技術とを教へ、十五六歳に及ばば皇子以下士民の俊秀を皆大學に入れ、之に教ふるに理を究め心を正し、己を修め人を治むるの道を以てし、其の卒業者を登用して治國太平の大業を成就すべし。又教育の中心は何人を以て之に當てんかと云へば、衆民の非違を禁止し、社會の安寧を維持する君主は、禮樂彝倫の道を教へ利用厚生之法を授くる宗師となり、治めて而して之を教ふべし。又教育

要件の選擇は如何なる標準に據りて之を決定せんかと云へば、君主は之を身に本づけ、之を庶民に徴し、之を先王に考へて謬らざるを世界に建て、悖らざるを物理に質して疑ひ無く行うて世界の法となり、言うて世界の則となる者たるべし。儒家の理想を略述すれば此の如し。

#### 第五節 理想の實現 其一 學校制度、其二 智德併進、其三 政教一途

今其の理想の實現せられたる要點に就て史的一瞥を試みん、中古以上は姑く置いて論せず、近古徳川幕府治世二百五十年間に於て、學者志士の尊信し中人以上に多く行はれたる教は儒教を以て第一となす、是を以て幕府の末路國歩艱難の時に當り、慷慨奮起して國事に盡瘁したる者は大抵儒生なりき。明治維新の大業を成就したる者も亦大抵儒教に教育せられたる人なれば、其の廟堂に立ちて政治教育の大綱を制定するに毫も宗教の臭味を雜へず。明治四五五年の頃、學制を發布して、國內に大中小の學校幾千萬を設置する計畫を、士民一般に知らしめ、士民の子弟をして皆學校に入らしめ、之に授くるに倫理的道德と科學的智識とを以てし、一國の教權をば明白に君主の政府に掌握したり。抑、徳川幕府時代に於て少しく書を読む者は、先

(七)

づ大學朱熹章句を誦し、少年の諳熟は其の頭腦に銘記して忘れず、苟も儒教に教育せられたる者は、朱子の大學序文に記する所を以て、士人の理想國家の目的となさざるは莫し。其の感化を受けて有爲の志を抱きたる者が、一朝其の志を得て廟堂に立ち、國政料理の大事に當り、其の大革新を企畫するに臨み、平素の理想が忽ち國政の上に實現せらるゝは當然の事なりとす。孔子以下儒家先賢の理想は、其の本國支那に於て、幾千年間唯理想たるに止まりしが、我が日本國明治維新の際を好機會とし、始めて容易に實現せられたるは、儒教其の物に取りて洵に奇遇と謂ふべし大幸と謂ふべし。

## 第六節 其四教育標準

今上皇帝陛下御少壯少年の頃より、常に御側近く仕へて厚く御信用を蒙り、畏くも御學問の侍講を二十餘年間勤め奉りたる故樞密顧問官男爵元田永孚先生は、學徳兼備の朱子學家として天下の仰瞻する大儒なりき。明治二十年の前後國民の徳育方針に就て、朝野の議論甚だ喧しかりければ、彌陛下が聖斷を以て教育の御勅語を頒發遊ばされ、臣民修學の主旨を明示し給はるに及び、謹んで之を拜讀すれば、聖意の在る所は盡く孔子の理想と符節を合するが如くに恐察し奉りぬ。此の時元田先生は

侍講として今日の文事秘書官長の如き職務をも勤められ、御前に拜伏して聖意の在る所を寫し奉るの光榮を得られたるやに、竊に洩れ傳へて承り、我等儒教主義の後生は大に之に感激して無上の名譽名譽を得たるの快情に堪へざりしなり。

## 第七節 實現の效果

明治初年に定められたる學制の計畫と、二十三年に發せられたる勅語の主旨とに本きたる我が國民教育の効驗は、漸次諸方面に現はれ來り、其の最も顯著にして世界列國の耳目を聳動せしめたるは、明治二十七八年の日清戰役を以て始となし、列國の士人は是の時より漸く我が國の文物を見聞せんとの意を起したり。尋で三年の北清戰役に於ては、宛も列國人種の陳列品評會を開きたるの觀あり、各國は相互に注目して其の優劣長短を觀察せり、此の時諸國民中獨り我が國民の品性最も高く智徳特に優れたるには、列國の識者皆驚愕嘆賞せざるは無かりき。爾來列國の君民は熱心に我が國の事情を研究して、我が國民の最も優勝なる所以は全く倫理的及び科學的の教育が國民一般に普及せられたるに在ることを發見し、之を其の國の新聞雜誌に紹介せしもの一にして足らず、是に於て列國の國論は年を追うて我が國の教育法に倣はんことを望むに至れり。既にして三十七八年の日露大戰

役起り、連戦連勝の結果我が國民の優勝は明白に世界の隅々までも知れ渡り、今や歐米の列強より諸洲大小の國々に至るまで皆法を我が國に學び則を我が國に取らんとて、我が國の士は聘せられて往き教へ彼の邦の人は望んで來り學ぶに至れり。之を親しく目睹する我等は其の愉快如何ぞや。起つて我が教育法の爲め大に賀し此の教育法に興りて最も力ある儒教の爲めにも大に祝し、儒教の教祖たる孔子に對しては大に感謝の意を致さざるを得ざるなり。

## 第八節 宗教の歴史及び現在

儒教の奏効する所此の如し、他方に於て宗教の歴史及び現状を觀察すれば如何。宗教の衆民に善を爲し惡を爲さざらしむる手段は、其の迷信を利用し其の恐怖心に乘じ、奇怪不思議にして甚だ理會し難き神佛の威力を假り、虚偽荒誕の妖説を捏造し、彼等蒙昧の愚民を脅喝誘惑するを以て唯一の秘訣妙策となし、人智を開發して事理を辨識せしむることを務めず、其の脅喝誘惑の手段は幼稚蒙昧の者に多少の効驗ありとすとも、何を以て其の品性人格の向上發展を望むべけんや。又何を以て治國平天下の大業を贊助せしむべけんや。宗教は人智未開の野蠻時代劣等の愚民に盲信せられて、當時こそ世の風教に多少の効能ありつらめ、時々現はれ出づる學

者哲人の發明唱導に頼り、人文は漸次進歩して世は益々開明に趨きたれば、宗教に心服する者次第に減少し、文明の今日に至りて尙ほ眞實に之を信奉する者は唯、舊習頑固の民に止まれり。少數の士人中には禪に參ずるとか神を見るとか言ひて誠心眞意宗教に信事するが如き者間之あり、縦令ひ其の事が高尙なりとするも、此は是れ唯、自己一人の道樂たるに過ぎず。我が國に於て宗教的神佛に歸依信仰せる者の一般現状を視來れば、唯、自己一身の爲めのみ、稍、廣きも家族若くは自己の愛する或る個人の爲めに冥罰怨靈を祓ひ、冥助冥福を祈るに過ぎず、甚だ陋劣狹隘なる利己主義の迷信盲行にして、人間交際の倫理と生活日用の實務とに何等の裨益も有らず。彼等は各、宗派を立て、自己の一派に固執し他宗と相容れず、歐洲諸國の如きは宗派の爭論より大戰闘を起すこと、數百年の間に幾十回なるを知らず、其の長きは數十年に亘りたるものあり、文明と稱せらるゝ今日に至りても、尙ほ異宗の嫉視を以て無辜の人民を迫害する者あり、宗教の大主義たる生命の救濟を忘却し、却て宗派争ひの爲めに無數の生靈を慘殺して少しも悔いざるに至るとは、愚も亦甚しと謂ふべし。

## 第九節 儒教と宗教との比較

釋迦基督は國家組織の不備なる時處に生れ出で、道を下流に傳へ、愚民の迷信を利用して社會的宗教となりたれど、孔子は國家組織の成立したる時處に生れ出で、道を上流に傳へ、智者に事理を説明して國家的教育となれり。之を要するに儒教主義は國家的なり、倫理的なり、實務的なり、科學的なり、現世的なり、而るに彼の宗教は悉く之に反す。今其の顯著なるものを舉げ以て試に之を比較せん。儒教は國家的學校なれば國內の諸校皆同一の教を授く、宗教は社會的教會なれば國內と雖も各會各異の教を授く、儒教は教權を君主に統へ君民其の徳を一にし國民は皆同主義ならざるなし、宗教の教權は各派の教長之を掌握し、君民は其の信仰を異にし國民も各自勝手の宗派に歸依す、儒教の學校に於て教ふる所は人間交際の倫理と生活日用の實務とに在れど、宗教の會堂に於て導く所は、神佛の讚美讀經と自己の祈禱懋安とに外ならず、儒教は現世の實際に就て事理を辨識せしめ、自己より國家社會に及ぼし共に完全に發達せんことを期す、宗教は後世を説き出世間を説き自己の解脱を目的とし、天國を説き天主の賞罰を説き世界末期の審判を終極とす。以上は兩者相違の概略たり、其の孰れが國家的政策に一致し、大に國運を進め得べきか、識者を俟たずして知るべきなり。

## 第十節 政策總論として目的異なれど手段の同

じきを述ぶ 其一政教一途、其二智徳併

進

前文述べ來れる所は大抵數學的方面より觀察したるものなれど、其の方面を改め更に政策上より觀察すれば如何。古來英雄が侵略的政策を行はんとするに當り、唯武力のみにては其の功を全うし難きを以て、教權を其の手に兼握し之を利用したることは其の事例に乏しからず、左手に經典を示し右手に長劍を掉りたるマホメットの如き者もあれば、又獨裁專制の武力的政權を握れる君主にして、且つ國の内外に於ける各教會を統一する大總長を兼ね、國外の自宗信者をも支配する政權を掌れるザールの如きもあり、國外より國權を禦肘する教權を排斥せんが爲め慨然奮起して自ら新教を興し、國內の教權を其の君主に歸せしめ、國民統一の功を奏したるルーテルの如きもあり、今や世界は國民的競争の時代となりたれば、一國民は皆其の教育を同じくし、其の目的を一にし、宗派の争論を止めて國民の團結を固くせざるべからず、治め易きを圖りて民を愚にする如き古風の政策を改め、一般人民の智識を進めて國家進運の用に堪へしめざるべからず、信仰の衰へたる宗教は恃



むに足らず、近世盛んに流行し來りたる個人主義の弊は、大に愛國心を弱めれば、今や必ず倫理の教を以て、國家の爲めには喜んで死に赴くの氣風を養成せざるべからざる必要は迫り來れるなり。吾國の徳川時代に於ける國內の形勢は封建式にして支那春秋時代に同じければ、孔子の説かれたる所は之を其の儘我に適用することを得たり、今や宇内は大封建式にして、宛も春秋及び徳川時代に同じき形勢なれば、亦儒教適當の時となれり。儒道の政教一途智徳併進主義は其の道德の基本たる仁心より自然に流れ出でたるものにて、決して疆土侵略、外權排斥、國民競争等より案出したる政策にはあらずと雖も、今の世に於ては、強暴に對しては我を防禦し彼を屈從せしめ、暗弱に對しては彼を開導扶掖し我に依頼心服せしむる必要上我が國は勿論世界各國に於ても、今後は皆儒教主義に據り、政教一途智徳併進の針路を取りて進行すべきは、瞭然火を睹るよりも明なりと余は信するものなり。

### 第十一節 歐洲宗教の弊害

是れより以下に於て先づ宗教的教育の弊害に就き、次に其の排斥運動及び儒教主義の西漸に就き、余の史的觀察を述べん。歐洲に於ては上古ソクラテース以來、學者哲人が學術的研究に従事し、其の哲學は次第に精密博大となり、心性物理の學より

法律政治の道に至るまで一時大に發達せしが、中古以來宗教の行はるゝこと甚だ盛んなりし爲め人智は閉塞せられ、倫理の講究は世間に閑却せられて其の發達を止め、教權は強大にして管政權の外に立つのみならず、各國の君主と雖も教權に服従せざるを得ざるの勢となり、一般子女の教育は僧侶の手に收められて、容易に動かすべからざる習慣を作り、其の傳ふる所は迷妄獨斷の神說にして、其の教ふる所は祈禱禮拜の儀式と固陋淺薄なる學業とに止まりて、智識を啓發し徳性を完成することには少しも意を用ひず、是を以て今日法政商工の大に發達したる比準には下級人民一般の智徳が最低の地位に止まりて、國家社會の進運に伴ひ進むこと能はず、彼等が立身上達の智能を缺き、畢生下層の苦海に沈淪して其の不平に堪へざるや、國內に在りて勞役を厭へば同盟罷工となり反抗弒逆となり、軍隊に従うて他國に戦へば奉公報國の義念に乏しくして死守鏖戰の勇氣なく、却て隊伍を亂し紀律を破りて財物を掠奪し婦女を強姦し、遂に其の跡を晦まさんとて其の家を焼き其の人を殺す等卑怯狡猾殘酷無情の心を以て、貪慾を恣にし盲動暴行すること多きは明に其の智徳の劣等を示すものにして、彼等の品性より之を論ずれば、固より當然の事態なりとす。

## 第十二節 其の排斥運動

近代に至り哲學再興し、科學を合せて大に發達し、有名の學者續々輩出し、物理工藝の發明と共に道徳法律の研究を進め、物質的の開化は生活の程度を高め、法律的の進歩は政治の組織を整へて、大に文明を誇るに及べるも、人智閉塞の宗教的教育は千有餘年の習慣として半平抜き難く、識者は勿論人文發達の今世、苟も常識を具ふるものは皆其の弊害を知り、學者志士は其の教理の誤謬を擧げて之を攻擧し、之に換ふるに智徳併進の倫理教育を以てせんと揚言すれど、僧侶は之を妨げ、保守黨は之を危ぶみ知識乏しき者は之を疑ひ、俊傑名士の組織せる政府と雖も、自國の歴史に先例無ければ、其の改革の實行は容易に着手する能はず、學者志士は常に之を遺憾とせり、然れども歐米各國の人文發達は、漸次宗教の迷妄を悟りて其の信仰は冷淡となり、虚飾となり、或は經典中事理に矛盾せざる限りを信仰するユニテリアンの如き新派興り、或は倫理運動會なるものを創立し、人文教化を理論的實際的に研究し、宗教を離れ倫理に據り、普通教育を市町村に移さんとし、大に同志を募りて共に實行の途に上りつゝある者あり、同主義者は近時獨米埃佛等各國に勃興蔓延し、其の萬國大會は九年前に初めて開かれ、昨年秋頃又英國に開かれたり、米國最近六

年間に於ける寄附金額表を見れば、學校、病院、圖書館、美術館、博物館及び宗教以外の公益慈善事業に寄附したる合計金額は九億二千萬圓に上り、宗教々會に寄附したるものは其の十三分の一即ち七千萬圓に過ぎずと云ふ、近時歐米各國に於て人心の歸向する所豈推知するに難からんや。

## 第十三節 儒教の西漸 其一 佛國

歐洲文明の諸國に於て學者志士が教育制度の改革に就き、極めて熱心なりとは云へど、其の經驗に乏しきを以て其の實行に躊躇し居たりしが、明治二十七八年日清戰役後は、日本の文物に耳目を寄せて其の觀察に注意を怠らず、三十三年北清戰役の時に至り、列國は皆日本人の動作行狀に注目し、之を各自の國人に比較して其の優劣長短を觀察したる結果、日本人種の品性高潔なるに驚嘆し、自國人種の醜行陋態に慚汗し、兩様の事實を一處に並列して同時に目撃し、茲に始めて倫理的教育の果して有益なると、宗教的教育の果して無効なるとの理由を明白に領會することを得たり、是に於て列國の學者は、自説の架空妄想に非ざることを目前の事例に證明し得て、益改革論を主張し、政治家は世界の大勢より國民的競争の現狀を考慮して、其の政策上に悟る所あり、英西獨埃等の國論も少しづつ動き出し、理想の實現に

急進の氣風ある佛國は、列國に先んじて第一に其の改革に着手し、宗教に附屬し來れる教育を以て政治の部類に屬すべきものとなし、之を僧侶の手より奪ひ取らんとする政教分離此の教は宗教を指す、儒家の教は教育を謂ふ、歐洲の分離は儒家の一途に同じ法案の提出は幸にも國民の興望に適合し、議院大多數の賛成を得て之を可決し、順次に教會附屬の兒童學校を政府に引渡さしめ、宗教的教育に従事せる男女の教員を免職するに當り、僧侶の紛争、頑民の反抗政敵の妨害等ありて、二三年間混雜騷動を極め、其の結局は本年に及び、羅馬法王の代理として派出し來り居る大僧正を國外に放逐して法王と絶交し、頑民の殘黨が固守せる教會學校は兵力を以て之を押收し、教育事業の故を以て兵役を免れ居たる幾千の僧侶は、強硬な召集命令に因りて皆軍隊に編入せしめられたり。

#### 第十四節 其二英國

次に動き來りたるは英國にして、同國の學者志士は夙に改革の計畫を研究し居たれども、保守の氣象に富める國風として容易に勃發せざりしが、日本の露國に大勝したると佛國の改革に成功したるとに促され、且つ昨年一月國會議員の總選舉に於て、自由黨が久し振にて大多數を得、新に自黨の内閣を組織する好時期に際會し

其の政綱には政教分離法案の提出を以て第一條件となし、又其の年秋季に開くべき倫理運動の萬國大會を自國に引受け、日本政府より教育行政に精通せる名士を新内閣の顧問に聘し、議案通過の上は着々實行の舉に出でんと努力せり、而して夏秋數月の間僧侶は全力を盡して反對の運動に従事し、保守黨は黨派的感情より種々卑劣なる妨害を施して之に反對したれど、兎に角下院は大多數を以て之を通過せり、然れども惜い哉、其の年末に至り頑固なる保守家の多き上院に於て、一二の要件に修正を加へられ、折角着手せし革新の精神も之れが爲めに其の大半を没却せられたり、昨年の政教分離法案は縦ひ十分の成績を得ざりしにもせよ、英國人民興望の在る所は之を見て大抵窺ひ知ることを得べし、其の他各國の國情は未だ詳ならざれども、世界の大局は以上述ぶる所を以て其の大概を推知するに足らん、政策的方面に於ける觀察は茲に終を告げ、最後に一言を述べて本篇の終局を結ばん。

#### 第十五節 結論

ソクラテース以來の學術研究は西洋より東洋に及ぼし、孔子以來の儒教主義は東洋より西洋に及ぼし、今や儒教主義は學術研究に迎へられ、世界各國は皆儒教主義に頼りて進行し、其の恩澤に浴せんことを切望しつゝあり、嗚呼、至聖先師孔子、其

の容明は古今に輝き其の徳風は世界を被ひ所謂明德を天下に明にせられたるものなり我等後生景仰の念何ぞ止むべけんや。

(110)

### 爲仁之方即絜矩之道

爲仁之方論語即絜矩之道大學は又君子之道中庸と曰ひ客觀的標準に従ふ所の忠及び克己と主觀的標準に従ふ所の恕及び由己との二方あり人の爲めに己を盡す之を忠と謂ひ己を推して人に及ぶ之を恕と謂ひ己の私意に克ち人世の禮法に復る之を克己復禮と謂ひ己の動機に由り他人の勸誘に由らず之を由己而由人乎哉と謂ふ孔夫子の顔子に答ふる所と曾子の門人に答ふる所とは其の言異なりと雖も其の事は俱に自他を合一にする方法にして其の合一にする方法は又必ず人を以て己と爲すと己を以て人を併すとの二方を併説せらる夫子曾子細心の言たること明なり而して其の仁なる者は管説文上に於て二人を合せ一と爲し形なるのみならず心理上に於て自他を一にし以て之を貫くの謂なることを知るべし隨て又吾道一以貫之の語の仁を説かれたるものなることも亦推して知るべし

近時歐米の學界に於て盛んに唱道せらるる人本主義及び社會心理學的倫理觀は夫子の既に見得て透徹せし陳迹にして夫の個人主義と社會主義との如きは早已に二千五百年前の昔日に於て調和せられ居るなり抑夫子の顔曾二子に傳ふる所は後儒も亦夫子心訣の存する所と爲し古來之を研究して各其の見得たる所を論述せし者幾十人なるを知らず而して余の簡明なる分析は二千五百年後の今日に於て始めて夫子曾子細心の所在を發揮し得たるかの如き感あり余の最も喜ぶ所なり因て余は論語中庸大學の三書に就き夫子曾子の爲仁之方に關する諸語を纂め分類的に排列して一表と爲し後に附し以て大方の是正を請ふ。

爲 仁 之 方 即 紫											
主 觀 的 標 的 養 修 己 自											
一			二			三			四		
論語			論語			中庸			中庸		
己欲立而立人			己欲達而達人			己所不欲勿施於人			先施於人		
積極的			消極的			積極的			消極的		
一重			二重			張子			張子		
以愛			己之愛			人心			人		
如己愛隣人耶和華			抓己身知人痛邦諺			己所欲被人施諸人耶蘇			己所不欲勿施於人比兒列兒		
以責			人之			以責			先難		
視人姿正己姿邦諺			張子			所求乎人已先備之內田			孔子		

心 己  
如 推

矩 之 道											
克 己 復 禮											
客 觀 的 標 準											
君 長 政 治 的											
七			八			九			十		
論語			大學			大學			大學		
躬自厚而薄責於人			所藏乎身能喻諸人			有諸己而後求諸人			無諸己而後非諸人		
兼兩極			積極的			消極的			積極的		
二重			乃至			四重			四重		
以治			己之			心治			人		
後獲			備諸己而後責諸人內田			朱子			朱子		
孔子			孔子			孔子			孔子		
上之所行民傲之			民以上之行爲矩			民以上之行爲矩			民以上之行爲矩		
內田			內田			內田			內田		
同			情			一重			一重		
民之所欲上行之			上以民之心爲矩			民之所欲上行之			上以民之心爲矩		
內田			內田			內田			內田		

備考 一は反發して二となり、一と二と相對し、二は開展して三四となり、三と四と相對し、三四は又展開して五六となり、五と六と相對し、五六は又一二三四と相對し、五は反發して七となり、五と七と相對し、七は開展して八九となり、八と九と相對し、八九は外界に擴張して十となり、十は反發して十一十二となり、十と十一十二と相對し、又十一と十二と相對し、十一十二は又一二と相對す。

世間往々恕と同情とを混する者あれども、恕は一己の場合にして、同情は十一

二の場合なり。

看者は一より十まで順次に開展したる跡を精察して、其の原理(仁)は最も單純(一重なる首(二)尾(十一)十二)の相待つて活動する處に在るを體認せられんこと、是れ纂者の切望する所なり。

### 儒軍廟算大略

(甲) 國家より觀れば

政治は功名富貴を私せんとする者の手に落ち易し。

宗教は國民全體を網羅して之を統御する能はず。

儒教は政教を一致し、教學の心を以て政治の事を行ひ、政治の力を以て教學の實を擧げんとす。

國學神道は神權主義、君主專制主義、國家至上主義の弊に陥り易し。

佛耶兩教は個人主義、社會主義、世界主義の弊に陥り易し。

儒教は祖先の恩澤を崇めて君臣の名分を嚴にすると共に公平なる王道を貴びて

立憲の政體に一致し、昔我が帝國に適合するのみならず世界萬國に適合せらる。

(乙) 個人より觀れば

佛教は内界の智に偏し情意を缺きて厭世に陥り易し。

耶教は外界の神に偏し智を缺きて迷信に陥り易し。

儒教は内外を合せ智情意を全うし道理明にして自然を樂む。

哲學は精神界の思辨に長ずれども世間の實用に迂遠なり。

科學は自然界の實驗に長ずれども人生の意義に疎濶なり。

儒教は精神界を自然界と共に科學的に研究して心術を鍛鍊し現實世界に活動して人格の完全を期す。

儒教新議跋

先君子以醫爲業。以儒爲志。既篤德行。又精思辨。未及據其志而逝。伯子克紹其業。而德行思辨。尤得先君子遺風焉。曩者著醫家人種發達論。今又有儒教新議。皆成於業務繁劇中。而其言博大正。確足以振斯文資治教。可謂能述先志者矣。顧周平業儒專且久而齷齪未能有爲。伯子老益壯。其勇於進取如此。殆有據鞍顧盼之概。弟能無愧乎。願賈餘勇以勉旃。

明治四十二年四月上澣弟周平謹識

明治四十二年四月十二日印刷  
明治四十二年四月十五日發行

(非賣品)

著者 內田正

靜岡縣濱名郡濱松町  
新百十一番地

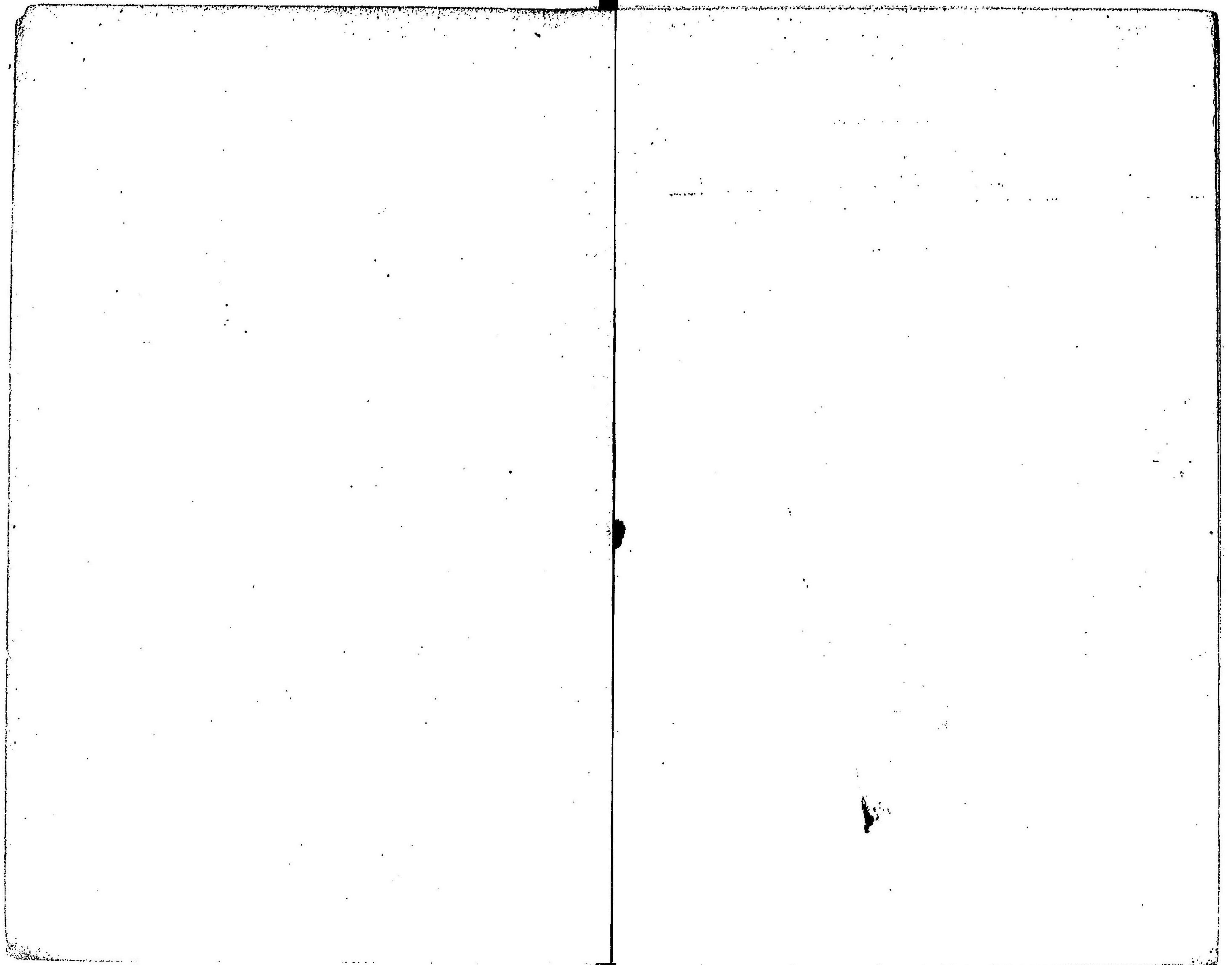
印刷者 中橋今朝吉

東京市赤坂區田町  
七丁目三番地



印刷所 文友社

東京市赤坂區田町  
七丁目十三番地  
(電話長四五〇五番)





444
409

